

観光コース6-2：龍田越え・古代製鉄たたら道 観光スポット①

<p>①久度神社</p> 	<p>奈良時代創建・竈（かまど）の神様 王寺町久度</p> <p>創期は奈良朝以前といわれ、祭神は品陀和気命（ほむだわけのみこと）と菅田和気命である。『続日本紀』に「延暦2年（783年）平群郡20座に列せられた」とあり、『延喜式神名帳』にも載っている古社である。</p> <p>久度神は御厨神（みくりやじん）の総称であり、「火の神」「竈かまどの神」と言われている。ほかに八幡（寿命・幸福の神）、住吉（水運・交通の神）、春日（子孫繁栄の神）の神を祀る。</p>
<p>②龍田大社</p> 	<p>龍田風神・官幣大社 三郷町立野南</p> <p>祭神は天御柱命（あめのみはしらのみこと）、国御柱命（くにのみはしらのみこと）、別名は志那都比古神、志那都比売神で、二神はそれぞれ「天地自然を支える風の霊」「風を司る」神である。『日本書紀』に「天武天皇4年（675年）4月4日に勅使を遣わして風の神を龍田の立野に祠らしむ」の記事が初見である。※4月4日例大祭 また毎年7月第一日曜に行われる「風鎮大祭」は、天武天皇の時代に始まると伝えられる由緒ある祭。</p>
<p>③神南備神社</p> 	<p>神様の休息場・万葉歌の地 三郷町立野</p> <p>神南備とは神様がお住まいになる森という意味で、龍田大社に集まる神々の休息の社が神南備神社のようだ。大和と難波を結ぶ龍田越えの交通の要所であり、旅行く人を見送る別れの社でもあったらしい。現在の社は龍田大社と共に移築されたものらしいとの説もある。</p> <p>案内板には神南備神社に纏（まつ）わる万葉歌人の歌が3首紹介されている。</p>
<p>④高橋虫麻呂の歌碑</p> 	<p>万葉の大家・犬養孝先生揮毫（きごう）の碑 三郷町立野</p> <p>JR三郷駅の南西の交差点の近くに、万葉仮名で書かれた歌碑がある。大阪大学名誉教授 故犬養孝先生の揮毫（きごう）によるものである。</p> <p>高橋虫麻呂作（奈良時代の養老、神亀（じんき）、天平にかけての万葉歌人）</p> <p>万葉歌 わが行は 七日は過ぎじ 龍田彦 ゆめこの花を 風にな散らし （吾去者 七日者不過 龍田彦 勤此花乎 風尔莫落）</p> <p>場所、年代は確定できないが天平6年（734年）頃。龍田越えの道中。</p>
<p>⑤磐瀬の杜</p> 	<p>藤原鎌足の正室・鏡女王の歌碑 三郷町立野</p> <p>昔は大和川（龍田川）の中洲にあって広大な杜であったらしい。</p> <p>神奈備の 岩瀬の杜の 呼ぶ子鳥 痛くな鳴きそ 吾が恋まさる</p> <p>鏡女王（かがみのおおきみ）の石碑がある。（藤原鎌足の正室で万葉歌人）</p> <p>滝祭が毎年4月3日にあり、前日に大和川から生魚を捕獲して唐櫃に納め、当日本社の神前に供し祭典終了後に元の川に放魚する古くから伝わる神事。</p>
<p>⑥三室山</p> 	<p>標高137mの三室山 三郷町・大阪府柏原市</p> <p>三室山（標高137m）は河内国中河内郡（現大阪府柏原市）と大和国生駒郡（現奈良県三郷町）の県境に位置し、生駒山脈の最南端部を占める龍田山（立田山）の一部をさして、三室山と称し、龍田大社の神域で、古くより人々に崇め、親しまれたところである。</p> <p>古代より龍田山を越えて河内国大県郡（現大阪府八尾市など）に通じる道を「龍田越」と称した。</p>

観光コース6-2：龍田越え・古代製鉄たたら道 観光スポット②

⑦傳龍田神社本宮跡



龍田大社の聖地 柏原市雁多尾畑(かりんどおばた)

龍田大社の社叢の背後、信貴山から続いてきた山並み「龍田山」には、中腹に「三室山」～「小鞍の嶺」がある。

毎年、龍田大社の神官が例祭の日に重要な祭祀を行なう聖地があり、小鞍の嶺と考えられる尾根上の平坦部分に「傳龍田神社本宮跡」と刻まれた石碑と、その背後の斜面に自然石の立石を祀る磐座が5ヶ所存在している。

⑧小鞍の嶺



龍田・三室山 桜の会 (三郷町立野南 2-2-35) 15 号園

桜の龍田古道復活を目指し平成17年7月7日に龍田・三室山桜の会を立ち上げ、山林の地主を説得し、龍田古道里山公園や龍田山・小鞍の嶺・三室山周辺一帯に桜を植樹。桜の里山公園が15箇所でき、桜のオーナー会員も1680名を突破、桜の植栽は累計3000本にのぼっている。

高橋虫麻呂歌集(巻9 1748)

我が行きは 七日は過ぎじ 龍田彦 ゆめ此の花を 風にな散らし

⑨御座峰



峰上に「傳龍田本宮御座峰」の石碑

里山公園(柏原市雁多尾畑)から北の信貴山へ通じる車道の西に聳える小高い嶺は「御座峰」とよばれ、峰上には「傳龍田本宮御座峰」の石碑があり(東向)、祭祀が続けられている。崇神天皇の時代、龍田の風の神が龍田山の峰に降臨した聖なる峰であり、御座峰～本宮の地-磐座～龍田大社へ連なる祭祀ルートは、神の降臨-移動の道＝「神降りの道」とも称されている。

里山公園(大阪府柏原市大字雁多尾畑652-7)に隣接。

⑩光徳寺



勅願寺 柏原市雁多尾畑(かりんどおばた)

光徳寺は、真宗大谷派の寺院。本堂は別称「雁林堂」(かりんどう)とも言い、「雁多尾畑」の地名の由来ともいわれる。

平安時代の永延2年に円融法皇が延暦寺の僧 法円法師に命じて建立した勅願寺である。当初は「東廣山照曜峰寺」と号し、その後、天永4年(1113年)に大和国興福寺の僧兵に寺を焼き払われる。安貞2年(1228年)に近江国の園城寺(三井寺)の僧俊円が照曜峰寺を再興。

⑪金山姫神社



日本最古の金属守護神 柏原市雁多尾畑

八大金剛童子社、山王さん、天王さんとも呼ばれたが明治8年に金山媛神社・金山彦神社に改められた。

金山媛神社・金山彦神社は「嶽山」(タケヤマ)の頂上にあつたものが、現在地に移転したものとされている。「嶽山」のすぐ近くには、龍田大社の奥宮の「御座峰」がある。金山媛神社の鎮座地は「雁多尾畑」(かりんどおばた)と云う。鉄滓(かなくそ)が多く残っているそうだ。タタラ製鉄の名残であろう。

⑫金山彦神社



古代製鉄たたらへの復元 大阪府柏原市青谷

御祭神 金山毘古神(カナヤマビコノカミ)金山彦神社は、およそ千数十年前(醍醐天皇延長五年)の平安時代に制定された延喜式神名帳に登載された式内社である。御祭神の金山毘古神は、およそ千三百年前(元明天皇和銅五年)に、古事記によると、伊邪那伎、伊邪那美二柱の神様よりお生まれになったと記されている。古代、当地の嶽山・龍田山を中心とする地域は製鉄業で栄えていたので、製鉄の守護神として奉祀されたのがはじめではないかと思われる。

